



## 「住友精化レポート2023」

### 第三者検証 意見書

2023年8月17日

住友精化株式会社  
代表取締役社長 小川 育三 殿

一般社団法人日本化学工業協会  
レスポンシブル・ケア検証センター長

尾崎 智



#### ■ 検証の目的

本検証は、住友精化株式会社で作成した統合報告書「住友精化レポート2023」(以後、報告書と略す)に記載された下記の事項について、レスポンシブル・ケア検証センターが化学業界の専門家の意見を表明することを目的としています。

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性
- 2) 数値以外の記載情報の正確性
- 3) レスポンシブル・ケア活動の内容
- 4) 報告書の特徴

#### ■ 検証の手順

- ・ 本社において、各サイト(事業所、工場等)から報告される数値の集計方法の合理性、及び数値以外の記載情報の正確性について調査を行いました。調査は、報告書の内容について各業務責任者及び報告書作成責任者に質問すること、並びに彼らより資料提示と説明を受けることにより行いました。
- ・ 別府工場において、本社に報告する数値の算出方法の合理性、数値の正確性、及び数値以外の記載情報の正確性の調査を行いました。調査は、各業務責任者及び報告書作成責任者に質問すること、資料提示・説明を受けること、並びに現地での現物確認を含む証拠物件との照合により行いました。
- ・ 数値及び記載情報の調査についてはサンプリング手法を適用しました。

#### ■ 意見

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性について
  - ・ 数値の算出・集計方法は、本社及び別府工場において、合理的な方法を採用しています。
  - ・ 調査した範囲において、パフォーマンスの数値は正確に算出・集計されています。
- 2) 数値以外の記載情報の正確性について
  - ・ 報告書に記載された情報は、正確であることを確認しました。原案段階では表現の適切性あるいは用語の整合性等に関し、若干問題があることを指摘しましたが、現報告書では修正されており、現在修正すべき重要な事項は認められません。
- 3) レスポンシブル・ケア活動の内容について
  - ・ 2022年度にサステナビリティ基本方針を制定し、品質を含めたRC活動を展開している。特に気候変動では、炭素循環社会実現タスクフォースによる具体的な取組みを実施していること、化学物質管理では、各国化審法への対応(コンサルタント活用)をしていること、毎月RC連絡会を開催し、全社の意思疎通・共有化、事故災害の再発防止を図っていること、品質では、工場品質監査とQCパトロールによる品質保証システムの維持管理を図っていることなど、有効な活動を展開していることを評価します。
  - ・ 今回の労働安全衛生法の改正を含め、リスクアセスメントに力を入れ、取扱物質、工程について実施しています。
  - ・ 別府工場では、仮想を含めHH(ヒヤリハット)を積極的に展開していることや職場ごとのRB(リフォーメーション別府)活動は、7年目に入り、定着した活動として評価します。また、OPLS(ワンポイントレッスンシート)も手軽で、分かり易いことが特徴で、職場で有効に活用しています。
- 4) 報告書の特徴について
  - ・ 統合報告書として、事業活動、中期経営計画、ガバナンス、全体の構成が分かり易く、非財務データとして、RC活動も個々に掲載し、充実した内容になっています。

以上